

第2回 主会場選定専門委員会 議事録（概要）

1 日時

平成25年(2013年)12月20日(金) 9:30~12:00

2 場所

滋賀県大津合同庁舎7-A会議室

3 出席委員（五十音順、敬称略）

大西 美和（副委員長）、北沢 繁和、小浦 久子、西條 智晴、坂 一郎、辻井 弘子、中井 敏勝、原 陽一、平林 光彦、松田 保、山崎 薫、横山 勝彦（委員長）、吉田 政幸

（欠席委員：宇田川 真之、清川 佳子）

（事務局：木村事務局長、事務局職員）

4 配布資料

別添のとおり

5 会議概要

（1）説明・報告事項

※事務局より、各候補地の現状について【資料3】により説明。

（2）審議事項

※事務局より、【資料4】【資料5】により説明。

【質疑】

- ① 各候補地の施設配置計画（案）について
- ② 各施設配置計画（案）に対する課題について

【彦根総合運動場】

（委員）

施設の更新時期も考慮する必要があるが、現施設の改築計画はないのか。

（事務局）

今のところない。主会場の議論が先行しているが、彦根総合運動場も含めた県立社会体育施設については、国体を見据え、来年度、改修の必要性も含め別途調査を行う

必要があると考えている。

(委員)

主会場の整備にあたり、彦根市が現行の風致や景観の規制を変えることは、世界遺産登録を目指すうえでおそらく問題になる。当該候補地はバッファゾーンとして指定しなければならないエリアにかかると思うので、本気で登録を目指すなら、慎重に検討されたほうがよい。

(委員)

地盤について、埋立地とのことだが評価はどうか。他の候補地も含め、条件の違いによってそれぞれの対策を示す、ということか。

(事務局)

条件の違いによる工法や費用を検討し、示していく予定。

(委員)

都市公園としての整備の前提となる、都市計画決定の範囲指定にあたり、その中の用地については必ずしも県有地である必要はなく、合意が得られれば市有地や民地であってもよかったのではないか。

(委員)

そのとおりである。なお都市公園の事業のうち、用地取得費については補助率 1/3 となることに留意しなければならない。

(委員)

対処方策に「建築面積の縮小」があがっているが、面積と座席数との関係はどうなるか。仮に Jリーグ（J1）開催を念頭に置く場合、最初から 2 万人規模の施設をつくらないと、後から対応は難しいということではないのか。

(事務局)

例えば皇子山の案では、15,000 人規模で 35,000 m²となっているが、設計上の配慮により同じ建築面積でも座席数は変わるので、一概に言えない。ただ後からの増設は困難であることから、最初の設定は重要である。

【希望が丘文化公園】

(委員)

文化財調査に時間がかかるということか。

(事務局)

当該候補地については改変面積も少ないため、仮に文化財が見つかったとしても、調査が長期間に及ぶ可能性は低いと考えている。

(委員)

土盛のスタンドの部分が山に重なることにより、どのくらいの支障が出るのか。必要性との兼ね合いはどうか。

(事務局)

図面上、スタンド下のスペースのうち1/4程度が使えないということになる。

施設として必要な事務室や陸上の練習場は当然必要だが、例えばレストランや、先催県の事例にある防災備蓄倉庫等、プラスアルファの施設を設置しようとする、スペースが多いほうがいい、ということにはなる。

実際に整備するときには、必要な施設は何か、という見極めが必要だが、狭いぶん制約が出る可能性がある、ということである。

(委員)

現在の競技場と同じ高さレベルで整備するとなると、競技場と中央道の高低差があるため、中央道側から競技場を見ると、通常の建物の高さに土地の高低差分の高さが加わることになる。

すなわち、おおらかな希望が丘の風景の中に、かなり圧迫感のある建物ができる、ということである。ただ一方では、通路側から高低差なく建物に入れる、ということでもあり、そういった建築上の利害得失については、断面図で押さえていかないと議論が難しい。

(事務局)

今回は4候補地の比較が主で、それぞれの施設の配置やデザインを確定することが目的ではないので、今後の課題として整理したい。

【びわこ文化公園都市】

(委員)

造成工事のスケジュール、1年半で他の候補地と変わらないが大丈夫か。地盤が安定するまで時間がかかるのではないかな。

(事務局)

他の候補地は既存施設の取壊し等を含んでいる。標準的な工期は見込んでいるが、造成の規模からもゆとりはないと考えられる。

(委員)

環境アセスメントや保安林解除など、一般的に順調にいくとは考えにくく、かなりタイトなスケジュールである、との感を受ける。

(事務局)

文化財調査についても、現在、本調査の必要性を見極めるための「踏査」を行っており、その結果も含め次回整理しお示ししたい。

(委員)

彦根も希望が丘も、陸上競技場の公認検定の都度整備を行っている現状であり、地盤対策や施設の配置は重要である。

〔皇子山総合運動公園〕

(委員)

当該地で敷地面積の拡張の可能性はあるのか。

(事務局)

市街地であり厳しい面があるが、隣接する国家公務員の官舎については売却対象となっていると伺っており、対処の可能性について市の意向を確認することになる。

(委員)

「その他」のところで、アクセスや宿泊、国体後の利用といったことは挙げないのか。Jリーグや他のイベント等、地元の魅力を発信できるような催しものを開催できるか、という視点も加えてほしい。

(事務局)

後ほど提示する「比較項目（案）」に、そうした視点を含めている。

(委員)

多目的広場の利用価値は高いように思うが、それを無くすこともやむなし、というのが大津市の意向なのか。

(委員)

「国体記念広場」は残す、とのことだが、空間的にも、駅からのアクセスについても工夫の余地はあるように思う。配置計画に変更が可能なのか、大津市にも確認してほしい。

(事務局)

これらの課題は、図面化することによって初めて見えてきたものであり、大津市への照会事項に加え、意向の確認を行いたい。

③ 各施設配置計画（案）に対する概算事業費について

④ 比較項目（案）について

※事務局より、【資料6】【資料7】により説明。

(委員)

地元の盛り上がり、といった側面での比較も必要ではないか。

(事務局)

県が施設を整備する場合でも、日常的に利活用するのは、まずは地元のまちである。

盛り上がりというよりは、主会場を地元のまちづくりにどのように活かしていただけるか、という観点で市町への照会事項にも入れ、整理していきたい。

(委員)

意見を聞くのは行政だけなのか。企業や地元の商店街にも聞くのか。

(事務局)

意見照会は、基本的には市町に行くことを想定している。

(委員)

複数の市にまたがる候補地は、市町間で温度差がないのか、協力体制が構築できるかも押さえるべき。

(委員)

競技場があるだけの施設ではいけない。レストランやショッピングなど、市民がスポーツ以外にも楽しめる施設、生活の中に密着した施設をめざし、50年先を見据えた整備をしないといけない。

(委員長)

非利用価値、オプション価値がどれだけ付加できるか、ということであると思う。

(事務局)

そうした有効活用の可能性が高いのはどの候補地か、という点での比較を行っていただく必要があると考えている。

(委員)

防災危機管理局の立場からは、スタンド下の備蓄倉庫については、滋賀県では既に民間物流倉庫と協定し県内7か所に拠点を設け確保しており、必要性という点からも検証が必要。

避難拠点としてのアクセスという点からは、高速道路のアクセスが重要だが、運動施設としては公共交通機関からのアクセスも重要。

(委員)

選手団が滋賀に来られた場合、その後の観光という面ではどのくらい期待できるのか。

(委員)

スポーツの全国大会を開催した経験からも、参加者は必ず観光をセットで意識されており、期待できる。

(委員)

滋賀は狭く、いろんなところに行けるという意味からも、主会場の比較項目として重視する項目ではないかもしれない。

(委員)

滋賀は宿泊施設が少ない。企業の協力や、空きアパートの活用、大学のセミナーハウスの利用なども視野に入れながら、トータルで見ていく必要がある。

(事務局)

国体の運営全般にあたっては重要な視点。

ただ主会場の選定にあたっての比較評価の視点にできるかについては検討する必要がある。例えば選手の移動時間として30分が目安とされているが、逆に30分あれば多くの候補地で確保可能であり、大きな差は出ないということにもなる。次回までに整理し、お示ししたい。

(5) その他

※事務局より、今後の予定について説明。

(以上)